

社団法人家庭電気文化会発行「住宅の電気設備推奨基準」第5版より抜粋

1.住宅用分電盤

- (1)単相3線式の場合、単相200V電気器具が容易に採用できるよう、200Vの予備回路を設けておくことが望ましい。
- (2)予備回路、分岐ブレーカの設置スペースを確保しておく。

2.漏電遮断器

- (1)住宅用分電盤には、必ず漏電遮断器を施設する。
- (2)単相3線式電路に施設する漏電遮断器は、中性線欠相保護機能付きのものを原則とする。

3.分岐回路

- (1)分岐回路数は、住宅の広さに応じて下表の値以上とする。
 - ① α は大容量電気器具用などの専用回路を示す。
 - ②電気利用の変化に対応できるように、200V回路および100V回路各1回路以上の予備回路を設ける。
 - ③専用分岐回路の必要な大型電気器具については、下表のほか別の専用分岐回路を設ける。
なお、電気器具の種類によっては、200V回路を設ける。
 - ④分岐回路は、電灯用とコンセント用に分けることが望ましい。

- ⑤深夜電力機器など電気契約種別の異なるものは、別個の専用回路を設ける。
- (2)専用分岐回路
 - ①10Aを超える大型電気器具は、専用回路で使用する。また、とくに大型の場合は200V分岐回路を適宜設ける。
 - ②一般に専用分岐回路で使用する電気器具としては、次に示すようなものがある。
電子レンジ、電気レンジ、食器洗い器、電気暖房器、エアコン、衣類乾燥機、洗浄便座など

住宅の広さ	必要最小回路数	望ましい回路数								
		計	内訳				α の例			
			照明	一般コンセント		衣類乾燥機	エアコン	洗浄便座	電子レンジ	
50m ² (15坪)以下	3	5+ α	1	2	2					1
70m ² (20坪)以下	4	7+ α	2	2	3	1	1~3	1	1	
100m ² (30坪)以下	5	8+ α	2	2	4	1	1~5	1~2	1	
130m ² (40坪)以下	6	10+ α	3	2	5	1	1~6	1~2	1	
170m ² (50坪)以下	8	13+ α	4	2	7	1	1~7	1~2	1	

施工に関するご注意

⚠警告

- ねじ締付け・電線選定は説明書にしたがってください。
火災になる恐れがあります。

⚠注意

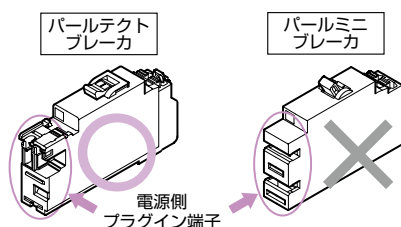
- 主幹ブレーカに電源を接続する場合は、各相を正しく接続してください。
- 単3中性線欠相保護付漏電遮断器の過電圧検出リード線は、必ず中性極バーに接続してください。
異常電圧が発生し電気器具を損傷する恐れがあります。

お願い

「取扱説明書・施工説明書」を商品に同梱していますので、ご使用前に必ずお読みください。

分岐ブレーカの増設、交換について

パールテクトの分岐ブレーカの増設、交換の際は、パールテクトブレーカをご使用ください。電源側プラグイン端子の形状が異なるため、従来のパールミニブレーカは取り付けできません。



- (1)住宅用分電盤は相線式(1 ϕ 2W、1 ϕ 3W)・回路電圧に合わせて選んでください。
回路方式
・単相2線式(1 ϕ 2W)100V
・単相3線式(1 ϕ 3W)100V/200V
- (2)主幹ブレーカに電源を接続する場合は、各相を正しく接続してください。相をまちがうと異常電圧が発生します。
- (3)盤定格電流を超える主幹ブレーカは取り付けしないでください。
- (4)導電部の接続ねじは、適正締付けトルク範囲内で確実に締付けてください。
- (5)導電部の接続ねじは、増締めを行ってください。

導電部の接続ねじ適正締付けトルク

ねじの呼び径	締付けトルクN・m
M4	1.2~1.6
M5	1.6~2.0
M6	3.0~4.0
M8	5.5~7.0

備考：機器端子 M5 圧着端子方式の場合は 2.0 ~ 2.5N・m

- (6)電線サイズは最大想定負荷電流に適合したものを使用してください。
主幹ブレーカ、分岐ブレーカに接続する電線サイズは推奨電線サイズ表から選んでください。

主幹ブレーカ・分岐ブレーカ推奨電線サイズ

主幹・分岐ブレーカの定格電流	電線サイズ
20A	ϕ 1.6、 ϕ 2.0
30A	ϕ 2.6、5.5~8.0mm ²
40A	8.0~14.0mm ²
50A・60A	14.0~22.0mm ²
75A	22.0~38.0mm ²
100A	38.0mm ²

- (7)分岐ブレーカには単線2本を接続しないでください。
- (8)圧着端子・圧着工具はJISマーク品を使用してください。
電線に適合した圧着端子を使用してください。
- (9)主幹ブレーカ2次側端子からの臨時配線および付属機器取付スペースからの仮配線は行わないでください。
- (10)単3中性線欠相保護付漏電遮断器の過電圧検出リード線は、必ず中性極バーに接続してください。接続しないと、欠相した場合に電気器具を保護できません。